

たつこの伝説

何百年も前、田沢湖は田沢瀉と呼ばれていました。伝説によると、近くの院内という町に、「たつこ」という名の類まれな美貌を持つ若い女性が住んでいました。ある日、田沢瀉の北端の相内瀉で水を汲んでいたたつこは、鏡のように輝く神秘的な岩、鏡石に映る自分の姿を目にしました。

自身の美しさがいずれ褪せてしまうことを知ったたつこは、その美しさを永遠に保ちたいと必死に願い、幾晩も慈悲の女神である大蔵観音に祈りました。

やがてたつこの祈りは応えられました。「北にある泉から湧き出る水を飲めば、願いが叶うでしょう」

たつこは家族に野草を摘むと言って出かけ、森に分け入り、現在「瀉頭の霊泉」(Miraculous Spring of Katagashira) と呼ばれる、二つの苔むした岩の間から水が湧いている泉にたどり着きました。喜んだたつこは、水を両手ですくってごくごく飲みました。しかし、飲めば飲むほどのどが渇きます。ついには、たつこは腹ばいになり泉の水を飲み干してしまいました。

恐ろしいことに、たつこは自分の姿が龍に変わっていることに気づき、田沢湖に身を投げました。たつこは、たつこ姫乃神という田沢湖の龍神になり、今でも湖を守っています。

たつこがいなくなって心配したたつこの母は、娘を探しに出ましたが、何が起こったかを知って打ちひしがれました。悲しみのあまり、たつこの母は持っていた松明を湖に投げ入れました。すると、この松明は田沢湖で最初の国鱒 (black kokanee、かつて田沢湖に生息していた珍しい淡水の鱒) になりました。

しかし、龍のたつこ姫乃神は一人ではありません。伝説によれば、男鹿半島にある八郎瀉に住む彼女の恋人、八郎太郎は、毎年秋にたつこを訪れ、冬を田沢湖で過ごします。龍神が不在の八郎瀉は一面凍り付いてしまいます。しかし、湖底で 2 匹の龍が泳いでいる田沢湖では、冬の間中氷が張りません。